

PRESS RELEASE

2010年10月18日

報道関係各位

データ・ケーキベーカ株式会社

データ・ケーキベーカ社、クロス表を可視化するソフト
“連環データ分析 ベイシック版”を発表
～表データの集計ケイサンから、表データの要約デザインへ～

データの情報化・知識化のためのソフトの開発型のベンチャー企業であるデータ・ケーキベーカ株式会社(東京都多摩市)は、従来からクロス表を可視化し情報化する“連環データ分析のベイシック無償トライアル版”ソフトを8月に公開しておりましたが、この度、10月25日より、本格的に“連環データ分析ベイシック版”をSaaS(レンタル型サービス)としてビジネスを開始すると、本日(10月18日)発表しました。

“連環データ分析”は、いままで表計算ソフトで集約計算されて済まされていたクロス表データを、マップとして表現するもので、無味乾燥なデータを、意味を持った情報に変換するため、データを要約し可視化し、情報化を支援するものです。具体的には、クロス表を構成する2種類のアイテムを同時布置し、これによって同時クラスタを可能にした世界初のユニークな機能を基本機能として持っております。

今回本格バージョンとして発表しました“連環データ分析ベイシック版”は、マップ上で、軸や要因ベクトル等を容易に表示・編集する「描画」機能も強化し、プレゼン用資料を簡単に作成することができるようにしました。

クロス表は、行(表側)と列(表頭)と、それらが示す2種類のアイテム間の関係を数値で示して造られた表形式のデータで、パソコンの初期からテキスト編集と共にこの集計計算ソフトは、重要なアプリケーションの領域の1つとして発展してきました。しかし、これらの表計算ソフトは、表データから、合計や平均、最大や最小またはバラツキを示す分散等を計算したり、また2つのアイテムの集合の関係を示す相関係数などを計算するのに使われてきました。これらは全て、データの個性を消して、全体を代表するいくつかの数値に集計する計算が主な機能でした。

連環データ分析は、表側と表頭の2種の集合のアイテムの関係が一目で判る様に、2次元か3次元空間にマップとして表現します。それぞれの集合の個々のアイテムを、そのマップ上に同時に布置し可視化します。それによって、表側のどのアイテムが、表頭

のどのアイテムと近いのか、また表側のアイテム同士、表頭のアイテム同士のどれが近いものかが理解できます。

データ・ケーキベーカ株式会社について

データ・ケーキベーカは、データを原料にし、これをケーキングして固め、焼いて膨らませて、美味しく味わいましょうという意味の、データ分析ソフトの開発型ベンチャーとして設立されました。設立 10 年にして、“連環データ分析”のソフトプロダクツシリーズが、次々にリリースできる段階になってきました。

さらに詳しい情報は、下記の URL をご覧下さい：

<http://www.dcb.co.jp>

データ・ケーキベーカ株式会社

東京都多摩市桜ヶ丘 1 丁目 53 番地の 46

TEL : 042-357-6871 FAX : 042-357-6871

<http://www.dcb.co.jp>

本件に関するお問い合わせ：唐澤/古山 dcba@dcb.co.jp

以上